

# カルデアの<sup>まきびと</sup>牧人 ～校長だより～ No.1

「カルデアの牧人」とは大東高校の生徒全員が持っている手帳の名前であり、校歌の3番の歌詞に由来します。

理想の洋は遙かなり/真理の道の遠ければ/あゝカルデアの牧人が/尋ねし星を今更に/  
中天高くよまんとす

紀元前7世紀、メソポタミアに新バビロニア王国を建国したのがセム系遊牧民「カルデア人」であり、遊牧の民である彼らは月の満ち欠けや星の運行などを緻密に観察し、考察することで天文学や占星術を発達させたとされています。

新しい時代の真理を追究し続けた考える民「カルデアの牧人」のように大東高校の生徒にも真理を追究し続けてほしいとの願いを込め、この校長だよりのタイトルとしても使わせてもらうことにしました。

\*\*\*\*\*

## 学は之を行うに至りて止む（令和4年度入学式式辞）

今年も在校生の参列はかないませんでした。新入生77名と保護者の参列で令和4年度の入学式を挙行し、式辞として「新学習指導要領」に関する話をしました。今年の高校1年生は新学習指導要領が正式に実施される学年であり、その目指すところを是非知っておいてほしいと思ったからです。

「新学習指導要領」の中で特に力点が置かれているのは「生きる力」を身に着けるため「確かな学力」が必要不可欠である、ということなのです。これまでの単なる「学力」と「確かな学力」は何が違うのか？

変化の激しい社会に対応するため、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質能力が「確かな学力」として解説されています。

即ち、単に知識の多さが学力なのではなく、それらを結び付け、行動・実践することができる力が「確かな学力」ということになります。

時代は大きく遡り紀元前四世紀、中国に荀子という人がいました。「青は之を藍より取りて藍より青し」という「出藍の誉」の諺を知っている人も多いのではないのでしょうか。この

言葉の前には「学はもって已むべからず」（学問に終わりはなく怠ってはならない）という言葉がついていて、生涯にわたる学問の大切さを説いた人物でもあります。

荀子は「学ぶ」ことに関して次のような言葉も残しています。」

聞かざるは之を聞くに如かず（話を聞かないことは話を聞くことに及ばない）

之を聞くは之を見るに如かず（話を聞くことは実際に見ることに及ばない）

之を見るは之を知るに如かず（見ることは知ることに及ばない）

これを知るは之を行うに如かず（知ることは行うことに及ばない）

学は之を行うに至りて止む（学問とは最終的には行うこと・実践するということなのである）

これを行えば明らかなり（行動・実践すれば問題点もすべて明白になる）

二千年以上前の書物に記された教えが幾多の時代を変遷し、巡り巡って現代日本の学校教育の道しるべとなっていることの不思議。古典や歴史を学ぶことの意義はこういうところにあると言えます。

もう一つだけ付け加えましょう。

ipad や iphone など革新的なものを次々と生み出し、世界を変えたといっても過言ではないアップル創業者のスティーブ・ジョブズの言葉です。

**Creativity is just connecting things.**（創造性とは単に物事を結びつけることです。）

物事、すなわち学んで身に着けたことを様々に結びつけるという行動・実践によって、新たなものを創造することができるということ。すべての学ぶことは無意味ではなく、いつか点と点が結びついて線となり、新たな意味を持つようになるということ。

私たち教職員は皆さんができるだけたくさんの「点」を持つことができるよう、その機会を提供します。しかし、その「点」の一つ一つを結び付け、考え、行動し、新たなものを作り出していくのはあくまでも皆さん自身です。私たち教職員は「伴走者」にすぎません。その代わりに、皆さん方が自力で走り出すまで、しっかりとサポートしたいと考えています。

本校の「目指す生徒像」は次の三つのです。

人と、つながることができる【人間力】

学んだことを、つなげることができる【学力】

自分と地域の未来を、つむぐことができる【社会力】

本校で「学ぶ」ことの目的をしっかりと自覚し、大東高校百四年の歴史の上に新たな伝統を創り上げてくれることを願っています。